

導入事例

仙台デザイン専門学校



ひとり1台の「Cintiq Companion」の導入で デジタルツールを使った授業の効率がアップ 学生のスキル習熟も向上



仙台デザイン専門学校は、株式会社ワコムのクリエイティブタブレット「Cintiq Companion」を2015年度新入生の推奨PCとして採用。デジタル時代のクリエイター育成に活用しています。

☑ 導入前の課題

- PC教室の施設や予算の制約のため、デジタル授業に必要な数の大型・高額機材の導入が難しい
- PCに慣れていない学生はデジタル授業に抵抗を感じ、スキルの差も生じて、授業を進めにくい
- ノートPCとペンタブレット両方を持ち運ぶのは、その重さが学生の通学に負担

☑ 導入後の効果

- PCに慣れていない学生も違和感なくデジタル授業に馴染め、機種が揃っているため指導がスムーズに
- 即戦力として必要なデジタルスキルの習熟が向上
- コンパクトなタブレットPCだから、通学時の学生の負担も軽減

ひとり1台のクリエイティブタブレット採用で 課題解決

仙台デザイン専門学校は、共用のデスクトップPCを備えたPC教室だけではすべてのデジタル授業に対応することが難しくなると考え、14年前から個人所有のノートPCを使った授業へと方針を転換してきました。これまで、学生は各自でノートPCを持って通学していましたが、コミックイラスト系のコースではペンタブレットも一緒に持ち運ぶことになるため、毎日の通学の負担となっていました。また、学生ごとに使用する機種やスペックが異なっていたため、授業でのまとまった指導が難しいという状況がありました。

そこで、2015年度からコミックイラスト系のコースの新入生に対してCintiq Companionを学校の推奨PCとしました。現在これらのコースの1年生の8割がCintiq Companionを持参し、Adobe PhotoshopやAdobe Illustratorを使った授業でデジタル作画を学んでいます。

同校グラフィックデザイン学科長の門田(もんでん)先生は、「デモ機を試用したとき、それまでペンタブレットに苦手意識を持っていた教員ほど好感触を得たようです。これだけコンパクトでWindows OSも入っているということが驚きで、これなら学生の通学時の負担の問題も解決できると思いました」と、その「コンパクトさ」と「使いやすさ」に惹かれたといいます。これまでも、教員から設備として据え置き型の液晶ペンタブレット導入の要望が上がったことはありましたが、教室や予算の問題から導入できずにいました。Cintiq Companionについては「PCとペンタブレットを同時に購入することを考えれば、価格的にも高すぎることはなく、学生にとっても憧れの液晶ペンタブレットということで、ご父兄にも問題なく買っていただけるはず」と、学校の推奨PCとして採用を決定しました。実際に、学生からの反応もよく、上級生の中には「どうして自分の時には推奨してくれなかったんだ」と言いながら、自分でノートPCから買い換えた学生もいたそうです。

学生のデジタルへの苦手意識を軽減し 授業の効率化を実現

Cintiq Companionを導入した学年では、PCの機種やスペックが揃っていることで授業がスムーズに進むようになり、内蔵SSDの速やかなレスポンスにより無駄な待ち時間も減り、授業の時間を有効に活用できるようになったと言えます。デジタルの授業では、個々の学生のPCへの習熟度が学習内容にも大きく影響しますが、Cintiq Companionは、PCに慣れていない学生にとっても親しみやすく、学生のデジタルに対する苦手意識の軽減にも役立っているようです。昨年度までは、PCに慣れていない学生の場合、入学時に購入したPCの箱を開けないまま最初の授業に持ってくるようなことも珍しくはなかったのですが、今年度は学生が率先してネットに繋いでみたり、絵を描いてみたりと、Cintiq Companionを何かしら使ってみた状態で最初の授業に挑んでいて、例年との状況の違いに教員一同驚きを隠せなかったと言います。門田先生も「入学前アナログに慣れている学生ほど、ペンタブレットに馴染めない傾向があって、個々のスキルの差が指導内容にも大きく影響していましたが、Cintiq Companionだと鉛筆感覚でダイレクトに描画できるので違和感なく使えます。授業では複数のツールを同時に使うことも多いのですが、スペック的にも十分で、学生もPCの操作に煩わされることなく授業に集中できています」と、その導入効果に手ごたえを感じています。



デジタルの積極活用で人材育成に期待

東北地方の各県から学生が集まる同校ですが、門田先生によれば、「以前は、コミック系の仕事をするには東京や大阪に出ていく必要がありましたが、震災後の企業誘致や、キャラクターや漫画・アニメを使ったプロモーション等の需要が増えたことで、地元発のコンテンツやそのための人材を求める声が増えています」とのこと。実際にそういった企業で活躍する卒業生も増えており、地元でのクリエイター育成に対する期待が高まっています。

クリエイティブ教育の場においては「デジタルに不慣れだと即戦力になれず、絵のうまい学生でも就職に苦労してしまう」という現実があります。デジタル技術の普及により、コンテンツの制作・発信の地域差がなくなりつつあり、門田先生は「Cintiq Companionを使うことにより学生がデジタルに抵抗感を持つことなく、思う存分才能を発揮できるようになってほしい」と期待を寄せます。

仙台デザイン専門学校は、これまで『ジョジョの奇妙な冒険』の荒木飛呂彦氏や、『ハイキュー!!』の古館春一氏など著名なクリエイターを世に送り出してきました。同校では、今年度の成果を受けて、今後コミックイラスト系のコースの新入生すべてに指定PCとしてCintiq Companionの採用を検討しています。クリエイター育成に実績のある同校が、ひとり1台のCintiq Companionというクリエイティブな環境を備えることにより、今後さらにアナログとデジタルの壁を超えた多くの才能を輩出していくことが期待されます。

